



も終わる所に、F4ナメ滝三段がある。更に小滝を二つ越えてゆくと、

F3ナメ滝四段があり、右岸をクライミングダウンする。左岸なら簡単に下れるのに、ちょっと難しい所を通ろうとするのも、また楽しい。この滝の上に、農用水だろうか、この沢の水をとっている取水口があって、右岸を導水路が通っている。

F2五段。この滝の上からもピニールホースで取水している。木を使って右岸を降り、左岸にトラバースして下る。

すぐにF1三〇段。ザイルを二本

用意してきていたから、アップザイルレンにも降りられたが、ザイルを出すのも面倒なので、左岸を捲く。挑んでいれば、空中懸垂になったよ

小深谷沢

上
一九八二年八月二十九日

小深谷沢より入渓。フェルトワラジを着ける。すぐにF1三三段トヨ状ナメ滝が現れる。滝の上もナメ。更に小滝が2つ続いて、出だしは上々である。

うだ。水量が少ない（この沢にはかなりの水量があるが、途中で取水されてしまう）ので、あまり大きく感じられないが、茂庭には珍しく大きな滝である。

すぐに国道三九九号線の橋に着き、道路に上がって、地藏沢の下降は終了。（記・一）

「タイム」 下降開始（九：一〇）↓終了（二：一五）

クロスズメバチの巣があった。この前の大雨で土砂崩れが起き、巣が露出している。そこをスズメバチに襲われたのだろう。弱りきった二、三頭のスズメバチがうろつき、巣の

断片が散乱している。クロスズメバチは、残った巢の断片にかたまっているが、巢の大きさからいって、その数は極単に少なく、また当然いるはずの幼虫や蛹の姿はない。スズメバチによるすさまじい攻撃と略奪のありさまが想像されようというものである。西さんが、落ちていた巢の断片を拾い上げたら、たまたまそれについていた一匹のハチに刺されてしまった。

左岸に大岩がある所を過ぎると、沢は全く平凡となった。左岸に大きなガレ場を見、行手をふさぐ倒木を乗り越えて進むと、二俣となる。ナメになっていて、左はほんの少しの水が流れているだけ。右の本流を進む。

三ヶのナメ滝を軽く越えて進むと、小滝が連続している所に来た。一

三ヶのものばかりなので、楽に越えてゆける。ここを突破している途中で、沢にサルナシの実が落ちているのに気づいた。樹を探して周りを見回すと、右岸の高い所に問題の樹があった。西さんが登って採る。熟しているのもあって、うまかった。

小滝群の最後に、沢を埋めるようにして大きなチョクストーンがある。これ乗り越えて上に出る。

もう水も少なくなってきた。尾根に向かつて登る。途中、三ヶ所ほど炭焼き釜のあとがあり、尾根には廃道があった。(記)

根(九:〇〇)
「タイム」小深谷橋(七:〇〇)↓尾

温帯の代表的な樹木④

コナラ(ブナ科)

コナラは、温帯であるならどこにもある木であり、福島市周辺の雑木林の主な構成樹である。

樹皮は灰黒褐色で、浅く縦に裂けている。実のドングリは、一・五〜二センチで球形をしており、カシワのように鱗片はない。

材の用途は多く、建築・器具材はもとより、薪炭材といえはこのコナラが圧倒的に多かった。現在は、シイタケ栽培の原木として使われている。福島はシイタケ原木の供給地で、遠く九州まで出荷している。(大西)